



Cisco UCS Director Express for Big Data のインストール

この章は、次の内容で構成されています。

- [VMware vSphere での Cisco UCS Director Express for Big Data のインストール, 1 ページ](#)
- [デフォルト パスワードの変更, 4 ページ](#)
- [ライセンスの更新, 5 ページ](#)
- [システム リソースの予約, 5 ページ](#)
- [最大パケット サイズの変更, 6 ページ](#)
- [Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定, 7 ページ](#)

VMware vSphere での Cisco UCS Director Express for Big Data のインストール

リリース 5.4 の OVF ファイル Cisco UCS Director には、Cisco UCS Director Express for Big Data リリース 2.0 が含まれています。



(注)

OVF 導入には VMware vCenter を使用することを推奨します。VMware vCenter のバージョン 5.x 以降がサポートされます。OVF 導入ウィザードは、IPv4 アドレスのみをサポートします。IPv6 が必要な場合は、OVF を導入し、shelladmin オプションを使用して IPv6 アドレスを設定できます。

はじめる前に

VMware vSphere または vCenter に接続するには、管理者権限が必要です。



(注) DHCP を使用しない場合、IPv4 アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの情報が必要です。

手順

- ステップ 1 VMware vSphere クライアントにログインします。
- ステップ 2 [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、Cisco UCS Director を導入する [データセンター (Data Center)] を選択します。
- ステップ 3 [ファイル (File)] > [OVFテンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] を選択します。
[OVFテンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [ソース (Source)] ペインで、次のいずれかの手順で OVF ソース ロケーションを選択します。
 - ロケーションを参照し、ファイルを選択して [開く (Open)] をクリックします。
 - ローカル エリア ネットワーク上の URL から導入します。*FQDN* (完全修飾ドメイン名) を IP アドレスまたはドメイン名に置き換えて、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5 [OVFテンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ペインで、詳細情報を確認してから [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6 [エンドユーザライセンス契約 (End User License Agreement)] ペインで、ライセンス契約を参照して、[同意する (Accept)] をクリックします。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7 [名前とロケーション (Name and Location)] ウィンドウで、次を実行します。
 - a) (任意) [名前 (Name)] フィールドで VM 名を編集します。
 - b) [在庫場所 (Inventory Location)] 領域から、Cisco UCS Director Express for Big Data が導入されている在庫場所を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
(注) 前のステップでデータセンターを選択した場合、オプション b は使用できません。
- ステップ 8 [ホスト/クラスター (Host/Cluster)] ペインで必要なホスト、クラスター、またはリソースプールを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9 [ストレージ (Storage)] ペインで、Cisco UCS Director Express for Big Data VM ファイルを保存するロケーションを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10 [ディスク形式 (Disk Format)] ペインで、次のいずれかのオプション ボタンを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
 - [シックプロビジョニング (Lazy Zeroed) (Thick Provisioned (Lazy Zeroed))] 形式：シック形式ですぐにストレージを割り当てる場合に選択します。
 - [シックプロビジョニング (Eager Zeroed) (Thick Provisioned (Eager Zeroed))] 形式：シック形式でストレージを割り当てる場合に選択します。このオプションを使用してディスクを作成する場合、時間がかかることがあります。

- [シンプロビジョニング形式]：データをディスクに書き込むときに、必要に応じてストレージを割り当てます。

ステップ 11 [ネットワーク マッピング] ペインで、該当するネットワークを選択して [次へ] をクリックします。

ステップ 12 [プロパティ (Properties)] ペインで、次の情報を入力し、[次へ (Next)] をクリックします。

- ルート パスワード
- Shelladmin パスワード
- 管理 IP アドレス
- 管理 IP サブネット マスク
- ゲートウェイ IP アドレス

(注) ルート パスワードとシェル管理者パスワードが設定されていない場合、デフォルト値が使用されます。

管理 IP アドレスと管理 IP サブネット マスクは 0.0.0.0 に設定され、デフォルトで DHCP を使用します。

ステップ 13 [完了前の確認 (Ready to Complete)] ペインで、選択されたオプションを確認して、[完了 (Finish)] をクリックします。

ステップ 14 VM で性能を発揮できるだけの十分な vCPU とメモリがあることを確認します。

ステップ 15 VM の電源をオンにします。

(注) [完了前の確認 (Ready to Complete)] ペインの [導入後に電源オン (Power on after deployment)] チェックボックスがオンになっている場合、アプライアンスは導入後に自動的に電源がオンになります。

ステップ 16 アプライアンスが起動したら、表示されている Cisco UCS Director Express for Big Data IP アドレスを、サポートされている Web ブラウザに転送し、[ログイン (Login)] ページにアクセスします。

ステップ 17 [ログイン (Login)] ページでは、ユーザ名の admin とログインパスワードの admin を入力します。

(注) この初回のログインの後、admin パスワードを変更します。

ステップ 18 メニュー バーで [管理 (Administration)] > [ライセンス (License)] を選択し、[ライセンスキー (License Keys)] タブをクリックします。

ステップ 19 [パーソナリティの管理 (Manage Personalities)] をクリックします。

ステップ 20 [パーソナリティの設定 (Personality Configuration)] ダイアログボックスで、必要なパーソナリティのチェックボックスをオンにします。
必要に応じて、[UCSD] または [ビッグデータ (Big Data)]、あるいはその両方をオンにすることができます。

ステップ 21 [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 22 デフォルトの shelladmin クレデンシャル (たとえば、shelladmin/changeme) で Cisco UCS Director VM コンソールにログインして、選択したパーソナリティ (ビッグデータ) を適用します。

- a) [Cisco UCS Directorシェル (Cisco UCS Director Shell)] メニューから [サービスの停止 (Stop Services)] を選択し、Enter を押します。
- b) Enter を押してメイン メニューに戻ります。
- c) [Cisco UCS Directorシェル (Cisco UCS Director Shell)] メニューから [サービスの開始 (Start Services)] を選択し、Enter を押します。
- d) Enter を押してメイン メニューに戻ります。
- e) [終了 (Quit)] を選択します。

Cloudera および MapR Hadoop ディストリビューションへのライセンスの適用

Hadoop ディストリビューションにライセンスを適用します。

- Cloudera の場合、サーバの IP アドレスとポートを使用して Cloudera Manager 管理者ユーザ インターフェイスにログインします。たとえば `http://<サーバの IP アドレス>:7180` です。[管理 (Administration)] > [ライセンス (License)] に移動し、該当するライセンスを更新します。
- MapR の場合、MapR から `license.txt` ファイルのライセンステキストを、Baremetal Agent サーバの `/opt/cnsaroot/bd-sw-rep/MapR_RPMS` ディレクトリにコピーします。

デフォルト パスワードの変更

初めてログインした後、管理者のデフォルト パスワードを変更します。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ユーザ (Users)] タブをクリックします。
- ステップ 3 デフォルト パスワードを変更する管理ユーザを選択します。
- ステップ 4 [パスワードの変更 (Change Password)] をクリックします。
- ステップ 5 [パスワードの変更 (Change Password)] ダイアログボックスで新しいパスワードを入力し、もう一度確認のためにパスワードを入力します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ライセンスの更新

はじめる前に

ライセンス ファイルを圧縮ファイルで受け取った場合は、展開して .lic ファイルをローカル マシンに保存します。

手順

-
- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [ライセンス (License)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [ライセンスキー (License Keys)] タブをクリックします。
 - ステップ 3 [ライセンスの更新(Update License)] をクリックします。
 - ステップ 4 [ライセンスの更新 (Update License)] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - .lic ファイルをアップロードするには、[参照 (Browse)] をクリックして基本ライセンスの .lic ファイルへ移動し、.lic ファイルを選択して [アップロード (Upload)] をクリックします。
 - ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

ライセンス ファイルが処理されて、更新の成功を確認するメッセージが表示されます。
-

システム リソースの予約

最適なパフォーマンスを実現するため、「[シングルノード設定のシステムの最小要件](#)」に記載されている最小システム要件よりも多いシステム リソースを Cisco UCS Director Express for Big Data のために予約することを推奨します。



(注) システム リソースの予約方法についての詳細は、VMWareのマニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** VMware vCenter にログインします。
- ステップ 2** Cisco UCS Director Express for Big Data の VM を選択します。
- ステップ 3** VM をシャットダウンします。
- ステップ 4** VMware vCenter で [リソース割り当て (Resource Allocation)] タブをクリックして現在のリソース割り当てを表示し、[編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 5** [仮想マシンプロパティ (Virtual Machine Properties)] ペインで、リソースを選択して新しい値を入力することで、リソース割り当てを編集します。
- ステップ 6** 新しいリソース割り当てが設定されたことを確認します。
-

最大パケットサイズの変更

Cisco UCS Director Express for Big Data データベース クエリのデフォルトの最大パケット (クエリ) サイズは 4MB です。より大きいサイズが 1 つ以上のポッドで必要となる場合は、最大パケットサイズの設定を 100 MB に増やすことをお勧めします。たとえば、大きいオープン オートメーション モジュールのインポートには、通常、より大きいパケットサイズが必要となります。



- (注) Multi-Node の設定の場合は、この設定をインベントリ データベース ノードとモニタリング データベース ノードで実行します。
-

手順

-
- ステップ 1** shelladmin で、[Root でログイン] を選択して、Cisco UCS Director Express for Big Data にログインします。
- ステップ 2** /etc フォルダに移動します。
- ステップ 3** my.cnf ファイルを開き、max_allowed_packet パラメータを探します。
- ステップ 4** max_allowed_packet パラメータの値を max_allowed_packet=100M に変更します。
- ステップ 5** my.cnf ファイルを保存します。
- ステップ 6** shelladmin で、次のように、すべてのノードの Cisco UCS Director Express for Big Data サービスを停止して再開します。
- a) [サービスの停止] を選択します。
 - b) すべてのサービスが停止していることを確認するには、[サービスのステータスを表示] を選択します。
 - c) ノードのすべてのサービスが停止した後、[サービスの開始] を選択します。
-

Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定

この手順は任意です。

手順

-
- ステップ 1** 次のクレデンシャルで Cisco UCS Director Express for Big Data VM コンソールにログインします。
- a) ユーザ : shelladmin
 - b) パスワード : changeme
- shelladmin にログイン済みでデフォルト パスワードを変更している場合は、上記パスワードの代わりにその新しいパスワードを使用します。
- ログイン後に [shelladminパスワードの変更] を選択してデフォルト パスワードを変更できます。
- ステップ 2** [ネットワークインターフェイスの設定] を選択します。
- ステップ 3** Do you want to Configure DHCP/STATIC IP [D/S] プロンプトで、次のどちらかを入力します。
- DHCP が有効である場合、D を入力します (IP アドレスが自動的に割り当てられます)。
 - スタティック IP を設定するには、S を入力してから、次のプロンプトで設定するインターフェイスを選択します。その後 IPv4 または IPV 6 を選択するオプションが表示されます。続いて、選択されたインターフェイスと IP のバージョンの確認が行われます。[Y] を選択して続行します。次の詳細を入力します。
 - IP アドレス
 - ネットマスク
 - ゲートウェイ
 - DNS Server 1
 - DNS Server 2
- ステップ 4** プロンプトが表示されたら、承諾します。
-

